

平成 17 年度廃棄物処理等科学研究費補助金

廃棄物処理対策研究推進事業報告書

平成 18 年 3 月

財団法人 日本環境衛生センター

補助事業名 平成17年度廃棄物処理等科学研究費補助金事業

所管 環境省

国庫補助金 14,881,000 円

推進事業名 廃棄物処理対策研究推進事業

事業番号 S1701

事業期間 平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

申請者名 財団法人 日本環境衛生センター  
理事長 小林 康彦

## 目 次

成果発表会の開催	1
日本人研究者の国際会議等派遣	6
成果発表等の情報発信	9

## 成果発表会の開催

### 1. 成果発表会の概要

今回の発表会は、ウエステック2005の開催と同時に開催された第9回日本廃棄物会議の一環として実施した。

第5回廃棄物対策研究発表会における成果発表内容は、環境省の平成16年度廃棄物処理等科学研究費補助金事業で実施された「次世代廃棄物処理技術基盤整備事業によって行われた技術開発（以下、次世代開発という）」および「廃棄物処理対策研究事業によって行われた研究（以下、廃棄物研究という）」の成果状況とした。

また、今回の成果発表会の中で「日本人研究者の国際会議等派遣」の報告（以下、海外報告という）も併せて実施した。

開催日	次世代開発の発表	平成17年11月29日（火）
	廃棄物研究の発表	平成17年11月29日（火）～12月2日（金）
	海外報告	平成17年11月29日（火）～12月2日（金）
		（次世代開発と廃棄物研究の発表日に毎日1～2題報告した。）
開催場所	幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市美浜区中瀬2-1） 3階303号室（11月29日のみ）と304号室（4日間）を使用した。	
主催	財団法人 日本環境衛生センター	
参加費	無料	

### 2. 成果発表会のプログラム等

#### （1）次世代開発の発表

発表題数は平成16年度廃棄物処理等科学研究費補助金で実施された次世代開発全12題（誌上発表3題を含む）であった。

発表時間は質疑応答を含めて20分/題とした。

座長・発表者・発表テーマは表-1であった。

#### （2）廃棄物研究の発表

発表題数は平成16年度廃棄物処理等科学研究費補助金で実施された廃棄物研究全51題（誌上発表1題を含む）であった。

発表時間は質疑応答を含めて20分/題とした。

座長・発表者・発表テーマは表-2～5とおりであった。

#### （3）海外報告

報告題数は「日本人研究者の国際会議等派遣」で派遣された8名の8題であった。

報告時間は質疑応答を含めて20分/題とした。

次世代開発の発表時に2題、廃棄物研究の発表時に6題を報告した。

表 - 1 廃棄物対策研究発表会（1日目）：会場「303号」

月日	時間	番号	発表者	発表者の所属名	発表テーマ	座長
11月29日(火)	10:30～10:40 開会、挨拶等					
	10:40～11:00	1	乗京 逸夫	北陸電力(株)	無声放電による微量PCB含有絶縁油の無害化技術の開発	(財) 廃棄物研究財団 杉山 吉男
	11:00～11:20	2	叶内 祐二	(株)コシダテック	感染性廃棄物トレーサビリティシステムの開発	
	11:20～11:40	3	井上 里志	石川島播磨重工業(株)	再生PETペットボトル樹脂を利用した低コスト粉体塗料の実用化	
	11:40～12:00	休 憩				
	12:00～12:20	4	小倉 正裕	(株)神鋼環境ソリューション	最終処分場から掘り起こされたPCBを含む土壌化した廃棄物の無害化に関する研究	
	12:20～12:40	5	下田 直樹	石川島芝浦機械(株)	水蒸気処理による低コストな植物廃棄物リサイクルプロセスの開発	
	12:40～13:00	6	和田 努	(株)ティラド	使用済み発泡スチロール(EPS)連続燃焼式油化装置の開発	
	昼休み(13:00～13:40)					
	13:40～14:00	7	亀田 洋	(財)日本環境衛生センター	海外報告1(ダイオキシン国際会議)	(財)日本環境衛生センター 小林 康彦
	14:00～14:20	8	平木 岳人	北海道大学	海外報告2(World Hydrogen Technologies Convention 2005)	
	14:20～14:40	9	山西 一誠	近畿環境興産(株)	有機塩素系溶剤・廃油の亜臨界水反応による脱塩、アルコール化、燃料油化に関する研究	
	14:40～15:00	10	野田 寿一郎	(株)エナジェン	難分解性有機物の生分解性化過程から成る高効率メタン発酵システムの開発	
	15:00～15:20	11	田中 稔	田中建材(株)	木質アスファルト加熱機械及び配合割合の技術開発	

表 - 2 廃棄物対策研究発表会（1日目）：会場「304号」

月日	時間	番号	発表者	発表者の所属名	発表テーマ	座長
11月29日(火)	10:30～10:40 開会、挨拶等					
	10:40～11:00	1	大谷 肇	名古屋大学	ゴム・プラスチック材料廃棄物のリサイクル過程における化学構造変化の精密解析と実用プロセスの構築	中央大学 松尾 吉高
	11:00～11:20	2	松崎 邦男	(独)産業技術総合研究所	研磨スラッジ産業廃棄物の再資源化及び利用技術に関する研究	
	11:20～11:40	3	後藤 純雄	(独) 国立環境研究所	木材系廃棄物の利用法の拡大に関する研究	
	11:40～12:00	休 憩				
	12:00～12:20	4	兼松 学	東京大学大学院	解体コンクリートの次世代再生化技術の開発	
	12:20～12:40	5	藤田 勇	(独)港湾空港技術研究所	水蒸気吸引式流出油回収機構の研究開発	
	12:40～13:00	6	寺園 淳	(独) 国立環境研究所	アジア地域における資源循環・廃棄の構造解析	
	昼休み(13:00～13:40)					
	13:40～14:00	7	近藤 勝義	東京大学先端科学技術研究センター	Si-0系燃焼灰の高付加価値・再資源化技術の開発に関する研究	(独)国立環境研究所 川本 克也
	14:00～14:20	8	袋布 昌幹	富山工業高等専門学校	廃石膏ボードの安全・安心リサイクル推進を可能とする石膏中フッ素の簡易分析・除去技術の開発	
	14:20～14:40	9	北條 純一	九州大学大学院	マイクロ波照射を用いたフライアッシュゼオライトの工業化プロセスの開発	
	14:40～15:00	10	田中 宏明	京都大学大学院	海外報告3(Water Environment,78th Annual Technical Exhibition and Conference)	
	15:00～15:20	休 憩				
	15:20～15:40	11	三宅 通博	岡山大学	使用済みニッケル水素2次電池をモデルケースとした環境に優しい資源循環プロセスの構築	
15:40～16:00	12	田中 幹也	(独)産業技術総合研究所	無電解ニッケルめっきにおけるミニマムエミッション化の研究		
16:00～16:20	13	中村 修	長崎大学大学院	食品リサイクルにおける社会技術の開発・研究		
16:20～16:40	14	西野 徳三	東北生活文化大学	生ごみ処理機の微生物活動評価を通じた再検討		

表 - 3 廃棄物対策研究発表会(2日目):会場「304号」

月日	時間	番号	発表者	発表者の所属名	発表テーマ	座長	
11月30日(水)	10:30~10:50	15	樋口 壮太郎	福岡大学大学院	埋立地再生総合技術システムの開発	生 須 藤 工 学 研 究 所	
	10:50~11:10	16	遠藤 和人	(独) 国立環境研究所	最終処分場の早期跡地利用を考慮した多機能型覆土の検討		
	11:10~11:30	17	ブレント・イナッチ	(独) 国立環境研究所	バイオ指標導入による最終処分場の安定化促進技術の評価		
	11:30~11:50	休 憩					
	11:50~12:10	18	谷口 初美	産業医科大学	廃棄物処分場のバイオ評価に関する研究		
	12:10~12:30	19	島岡 隆行	九州大学大学院	焼却・溶融残渣の有効利用における鉱物学的・土壌生成学的安定化に関する研究		
	12:30~12:50	20	石井 一英	北海道大学大学院	バイオ技術を中心とした不法投棄現場及び不適正最終処分場の修復・再生システムの開発		
	昼休み(12:50~13:30)						
	13:30~13:50	21	松井 康弘	岡山大学大学院	海外報告4(国際廃棄物処理協議会)	(独) 井上 隆三 国立環境研究所	
	13:50~14:10	22	石井 一英	北海道大学大学院	海外報告5(国際廃棄物管理理立シンポジウム)		
	14:10~14:30	23	鈴木 茂	(独) 国立環境研究所	不法投棄廃棄物等に含まれる化学物質の包括的計測手法の開発に関する研究		
	14:30~14:50	24	渡辺 義公	北海道大学大学院	嫌気性アンモニア酸化型メンブレンバイリアクターを核とした新規浸出水処理システムの開発とDNAチップを用いた処理水の安全性評価手法の確立		
	14:50~15:10	休 憩					
	15:10~15:30	25	井上 千弘	東北大学大学院	下水処理場をモデルケースとした太陽光利用水素生産システムの構築		
15:30~15:50	26	石原 達己	九州大学大学院	廃棄物処理施設から排出される廃液からの有害イオンの選択除去用無機イオン交換体の開発			
15:50~16:10	27	窪田 吉信	横浜市立大学大学院	し尿処理にともなう水中のエストロゲンの酸化チタン光触媒による分解除去			
16:10~16:30	28	蛭江 美孝	(独) 国立環境研究所	生活排水処理システム浄化槽の窒素除去の律速因子となる硝化細菌の迅速測定・高度処理・維持管理技術の開発研究			

表 - 4 廃棄物対策研究発表会(3日目):会場「304号」

月日	時間	番号	発表者	発表者の所属名	発表テーマ	座長	
12月1日(木)	10:30~10:50	29	井上 勝利	佐賀大学	バイオマス廃棄物を有効使用した重金属含有魚介類廃棄物の適正処理技術の開発	田 岡 中 山 大 学	
	10:50~11:10	30	東 順一	京都大学大学院	有害重金属を含む海産物廃棄物の包括的再資源化		
	11:10~11:30	31	松田 仁樹	名古屋大学大学院	減圧加熱/塩化揮発の組み合わせによる固体残渣類の完全無害化と重金属の高効率分離回収・再資源化に関する研究		
	11:30~11:50	休 憩					
	11:50~12:10	32	横山 隆	横浜国立大学	溶融飛灰中の重金属の分離除去技術の開発		
	12:10~12:30	33	高岡 昌輝	京都大学大学院	焼却飛灰上での微量有機汚染物質の再合成における重金属の役割解明		
	12:30~12:50	34	高松 武次郎	(独) 国立環境研究所	次世代技術利用金属の環境溶出特性と土壌中動態の解明に関する研究		
	昼休み(12:50~13:30)						
	13:30~13:50	35	稲葉 陸太	北海道大学大学院	海外報告6(国際廃棄物処理協議会)	静 岡 県 立 勇 大 学	
	13:50~14:10	36	大塚 義一	(株) 奥村組	海外報告7(国際廃棄物管理理立シンポジウム)		
	14:10~14:30	37	迫原 修治	広島大学大学院	分子インプリント感温性ゲルを用いた土壌洗浄排水中の重金属類の新規な吸着分離法に関する研究		
	14:30~14:50	38	神野 健二	九州大学大学院	海底における有害廃棄物に汚染された底質の安全な処理に関する研究		
	14:50~15:10	39	斎藤 祐二	大成建設(株)	リグニン分解酵素を含む培養液を用いた焼却灰中イオキシソンの分解に関する研究		
	15:10~15:30	休 憩					
15:30~15:50	40	高橋 惇	高砂熱学工業(株)	ダイオキシソソ汚染水質・土壌の浄化バイリアクター構築のための研究			
15:50~16:10	41	我妻 和明	東北大学金属材料研究所	金属スクラップ素材の高度循環利用のための新しい高速定量分析法の開発			
16:10~16:30	42	柴田 悦郎	東北大学多元物質科学研究所	臭素系ダイオキシソソの生成および排出抑制に関する基礎的研究			
16:30~16:50	43	滝上 英孝	(独) 国立環境研究所	循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ/モニタリング手法の開発			

表 - 5 廃棄物対策研究発表会（4日目）：会場「304号」

月日	時間	番号	発表者	発表者の所属名	発表テーマ	座長	
12月2日 (金)	10:30~10:50	44	姫野 修司	長岡技術科学大学	小規模処理場における高効率ガス発電を可能とする熱分解 - ガス改質技術の開発	(財)日本環境衛生 藤吉 秀昭	
	10:50~11:10	45	西川 宏	大阪大学接合科学研究所	水蒸気プラズマによる残渣炭化物のクリーンガス化処理プロセスの開発		
	11:10~11:30	46	丑田 公規	(独)理化学研究所	マイクロ波誘電加熱によるPVC脱塩素技術の超高効率化による環境リスク低減		
	11:30~11:50	休 憩					
	11:50~12:10	47	吉岡 敏明	東北大学大学院	素材構成と地域性を活かしたポリエステル廃棄物からのBTX転換処理技術の開発		
	12:10~12:30	48	民谷 栄一	北陸先端科学技術大学院大学	新規ガス滅菌システムによる感染性廃棄物の適性処理法及びリサイクル技術に関する研究		
	12:30~12:50	49	高原 成明	(株)コシダテック	医療廃棄物の戦略的マネジメントに関する研究		
	昼休み(12:50~13:30)						
	13:30~13:50	50	武内 千英	岡山大学大学院	海外報告8(The 3rd International Symposium on Feedstock Recycling of Plastics & Other Innovative Plastics Recycling Techniques)	(財)日本環境衛生 小林 康彦	
	13:50~14:10	51	松山 喜代志	トヨタ自動車(株)	PCB廃棄物一貫処理システムの安全性、信頼性向上に関する研究		
	14:10~14:30	52	安田 八十五	関東学院大学	容器包装の分別収集・処理に係る拡大生産者責任の制度化に関する研究		
	14:30~14:50	53	早瀬 光司	広島大学	実団地における資源循環型ライフスタイル普及のための環境コミュニケーションとその効果に関する実証的研究		
	14:50~15:10	休 憩					
	15:10~15:30	54	井村 秀文	名古屋大学大学院	地域資源循環に係る環境会計表の作成とその適用		
15:30~15:50	55	平井 康宏	(独)国立環境研究所	残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用			
15:50~16:10	56	乙間 末廣	北九州市立大学	ビジネススタイルの相違による廃棄物排出抑制及び再生利用促進効果の検証と変革のための成立要件に関する研究			

### 3. 聴講者数

聴講は自由聴講とし、事前申し込みは不要とした。直接会場に来ていただき、受付にて、名刺等と引き換えに抄録集を手渡した。なお、会場への出入りは自由としたので、発表テーマにより聴講者数が変動した。

#### (1) 会場内の聴講者数

会場内における聴講者数は表 - 6 のとおりであった。

会場内の聴講者数は実数を数えたものであり、発表テーマにより変動があった。

11月29日(火)は2会場(次世代開発の発表会場と廃棄物研究の発表会場)、11月30日(水)~12月2日(金)は1会場(廃棄物研究の発表会場)を使用した。

表 - 6 聴講者数

発表月日	時間	聴講者数(人)
11月29日(火) 次世代開発の発表	午前	15~28
	午後	7~12
11月29日(火) 廃棄物研究の発表	午前	7~17
	午後	12~17
11月30日(水) 廃棄物研究の発表	午前	23~31
	午後	9~18
12月1日(木) 廃棄物研究の発表	午前	20~27
	午後	14~29
12月2日(金) 廃棄物研究の発表	午前	17~24
	午後	15~34

\* 聴講者数は実測した人数であるが、発表テーマにより、出入りがあるため、範囲を示した。

(2) 聴講者数(実数)

受付において、受け取った名刺数及び座長・発表者数は表-7のとおりであった。

受付における名刺の枚数は次世代開発の発表日(11月29日(火))は35枚、廃棄物研究の発表日は11月29日(火)33枚、30日(水)54枚、12月1日(木)70枚、2日(金)68枚であり、総計260枚であった。なお、座長・発表者数(重複を除く)の計77名からは、名刺を受け取っていないため、聴講者の実数は337名であった。

表-7 名刺数及び座長・発表者数

月日	時間	名刺数(枚)		座長・発表者数(人)	日計(人)
		時間帯別	計		
11月29日(火) 次世代開発の発表	午前	23	35	13	48
	午後	12			
11月29日(火) 廃棄物研究の発表	午前	18	33	16	49
	午後	15			
11月30日(水) 廃棄物研究の発表	午前	32	54	16	70
	午後	22			
12月1日(木) 廃棄物研究の発表	午前	42	70	17	87
	午後	28			
12月2日(金) 廃棄物研究の発表	午前	46	68	15	83
	午後	22			
		合計	260	77	337

4. 成果発表会の広報活動

(1) 関係者への広報

今回の成果発表会は第9回日本廃棄物会議の一環として実施したため、廃棄物会議実行委員会の事務局である国際コンベンション(株)が開催案内の印刷物を作製し、それを関係者へ送付した。

国際コンベンション(株)が配布したものは、下記の3種類であった。

告知チラシ 16万枚  
ガイドブック 2千部  
当日プログラム 2千部

(2) 一般者への広報

一般の人に対しては、(財)日本環境衛生センターのホームページに開催案内(日程、会場、参加費、申し込み方法、プログラムなど)を掲載した。また、廃棄物学会のホームページに開催案内のリンクをお願いした。

(3) その他の広報

国際会議場入口に立て看板(横900mm×縦2700mm)を設置し、ウエステック2005来場者および廃棄物会議に出席する人に聴講を呼びかけた。また、ウエステック会場内の(財)日本環境衛生センターのブースにおいても成果発表抄録集を配布・宣伝した。



## 日本人研究者の国際会議等派遣

### 1. 応募について

#### (1) 募集案内の送付

募集案内を作製して、平成16年11月初旬に廃棄物学会員約800名および(財)日本環境衛生センターの会員・各県の公害センター・関連団体等約500の合計1,300部を送付した。また、(財)日本環境衛生センターのホームページにも募集案内を掲載した。

なお、募集期間は平成16年12月1日～平成17年2月28日とした。

#### (2) 候補者の依頼

募集案内を配布・掲載したが、募集期間に募集人数6～7名に対して、1名の応募しかなかったため、この分野に造詣の深い方々に、派遣候補者の依頼をした。

表 8 候補者を立てていただくことをお願いした方々の一覧

氏名	所属
平岡 正勝	立命館大学エコ・テクノロジー研究センター長
田中 勝	岡山大学大学院環境学研究科 教授
花嶋 正孝	福岡県リサイクル総合研究センター センター長
武田 信生	京都大学大学院工学研究科 環境工学専攻教授
古市 徹	北海道大学大学院研究科 環境資源工学専攻廃棄物管理工学研究室教授
森口 祐一	(独)国立環境研究所 循環資源型社会形成推進・廃棄物研究センター長

なお、候補者を立てていただくにあたり、派遣条件を2つ変更した。

「国際会議等で発表すること」から「国際会議等で発表する研究等の代表研究者及び共同研究者」に変更

申込書の提出期限を「平成17年2月28日」から「平成17年6月17日(金)」に変更

## 2. 派遣者の選定

### (1) 応募者

募集案内による応募者および候補者は表 9 の 8 名であった。

表 9 応募者および候補者の一覧

番号	氏名	所属	職名	年齢
1	亀田 洋	財団法人日本環境衛生センター 環境科学部	計測技術課係長	34
2	武内 千英	岡山大学大学院 環境学研究科 資源循環学専攻	博士前期課程(修士)1年	22
3	平木 岳人	北海道大学 エネルギー変換マテリアル研究センター	学生(大学院修士課程1年)	23
4	大塚 義一	株式会社 奥村組 技術本部	技術企画課主任	39
5	石井 一英	北海道大学大学院工学研究科北方圏環境政策工学専攻	助手	34
6	田中 宏明	京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター	教授	49
7	稲葉 陸太	北海道大学大学院工学研究科北方圏環境政策工学専攻	助手	31
8	松井 康弘	岡山大学大学院環境学研究科	特任教員(COE)	36

但し、年齢は平成17年3月現在を示す。

### (2) 派遣者の決定

派遣者を決めるためには、審査委員会を開催して決めることとなっているが、委員方々の日程調整が困難であったこと、および派遣予定のダイオキシン国際会議の開催日(8月21日~26日)が迫ってきており、早急に派遣者を決定する必要があったことから、審査委員には書面表決をお願いした。なお、審査依頼日は平成17年7月6日であり、回答日は7月15日とした。

審査委員は次の3名であった。

- ・立命館大学エコ・テクノロジー研究センター長 平岡 正勝
- ・福岡県リサイクル総合研究センター長 花嶋 正孝
- ・岡山大学大学院環境学研究科 教授 田中 勝

書面議決の結果、応募者8名全員が派遣されることに決定した。

## 3. 派遣した国際会議等

派遣した国際会議等は下記の6箇所であった。

第25回ダイオキシン国際会議(25th International Symposium on Halogenated

Environmental Organic Pollutants and POPs)

開催期間：平成17年8月21日～26日

開催場所：カナダ(トロント)

被派遣者：亀田 洋

プラスチックフィードストックリサイクルの国際シンポジウム(3rd  
International Symposium on Feedstock Recycling of Plastics)

開催期間：平成17年9月25日～28日

開催場所：ドイツ(カールスルーエ)

被派遣者：武内 千英

World Hydrogen Technologies Convention 2005

開催期間：平成17年10月3日～6日

開催場所：シンガポール(サンテック)

被派遣者：平木 岳人

第10回国際廃棄物管理埋立シンポジウム“サルジニア2005”(10th International  
Waste Management and Landfill Symposium)

開催期間：平成17年10月3日～7日

開催場所：イタリア(カリアリ)

被派遣者：大塚 義一、石井 一英

第78回米国水環境連盟年次総会(78th Annual Technical Exhibition and  
Conference)

開催期間：平成17年10月29日～11月2日

開催場所：米国(ワシントンD.C.)

被派遣者：田中 宏明

国際廃棄物処理協議会2005(International Solid Waste Association Congress  
2005)

開催期間：平成17年11月6日～10日

開催場所：アルゼンチン(ブエノスアイレス)

被派遣者：稲葉 陸太、松井 康弘

#### 4. 派遣の成果

派遣の成果については、「成果発表会の開催」で報告した。

なお、表10に日本人研究者の国際会議等派遣一覧を示す。

表 10 日本人研究者の国際会議等派遣一覧

国際会議等名称	開催場所	派遣者	派遣期間
第25回ダイオキシン国際会議	カナダ(トロント)	亀田 洋	平成17年8月21日～28日 (8日間)
プラスチックフィードストックリサイクルの国際シンポジウム	ドイツ(カールスルーエ)	武内 千英	平成17年9月20日～29日 (10日間)
World Hydrogen Technologies Convention 2005	シンガポール(サンテック)	平井 岳人	平成17年10月2日～7日(6日間)
第10回国際廃棄物管理埋立シンポジウム “サルジニア2005”	イタリア(カリアリ)	大塚 義一	平成17年10月2日～9日(8日間)
		石井 一英	平成17年10月1日～12日 (12日間)
第78回米国水環境連盟年次総会	米国(ワシントンD.C.)	田中 宏明	平成17年10月28日～11月4日(8日間)
国際廃棄物処理協議会2005	アルゼンチン(ブエノスアイレス)	稲葉 陸太	平成17年11月5日～13日 (9日間)
		松井 康弘	平成17年11月4日～14日 (11日間)

成果発表等の情報発信

1. 成果発表の情報発信

成果発表会で発表した次世代開発12題(誌上発表3題を含む)、廃棄物研究51題(誌上発表1題を含む)及び海外報告8題の合計71題の要旨を(財)日本環境衛生センターのホームページに掲載した。

また、成果発表会の当日聴講者に配布した抄録集を表-11の送付先へ送付した。

表-11 成果発表抄録集送付先

送付先	送付箇所数	合計
(財)日本環境衛生センター法人会員	117	396
都道府県の衛研・公害センター	90	
廃棄物関連団体	83	
企業・大学等	106	

## 2. 廃棄物処理科学研究に係る情報データベースの作成及び発信

廃棄物学会誌、土木学会誌、各国立研究所報、地方研究所所報等から、廃棄物処理科学研究に係る文献を収集(1990年～2005年)し、情報データベースを作成した。収録図書及び収録件数は表-12に示すとおりであり、収録件数は約16,600件に及んでいる。

また、これらは(財)日本環境衛生センターのホームページに掲載している。

表-12 情報データベースの収録図書及び収録件数

分類	図書名	収録文献数		
		1999～2004年	2005年	計
廃棄物学会	廃棄物学会誌	703	37	740
	廃棄物学会論文誌	426	53	479
	研究発表会講演論文集	4,524	425	4,949
	研究発表会・国際セッション	198	34	232
	Korea・Japan English Session	46	0	46
	Proceedings of Asian Pacific Landfill Symposium	64	0	64
土木学会	土木学会誌	101	20	121
	土木学会論文集	85	5	90
	土木学会年講概要集第2部	182	0	182
	土木学会年講概要集第5部	195	15	210
	土木学会年講概要集第7部	567	28	595
	環境工学研究フォーラム論文集	65	2	67
	環境工学研究論文集	55	3	58
	衛生工学研究討論会講演集	5	0	5
	衛生工学研究論文集	4	0	4
	環境システム研究論文集	138	19	157
	環境システム研究論文発表会講演集	41	27	68
機械学会	日本機械学会誌	71	3	74
	環境工学総合シンポジウム	557	31	588
地下水学会	地下水学会誌	28	0	28
環境経済・政策学会	環境経済・政策学会大会報告要旨集	237	21	258
地盤工学会	土と基礎	127	13	140
資源処理学会	資源処理技術	137	22	159
資源・素材学会	資源と素材	181	0	181

環境社会学 会	環境社会学研究	17	0	17
国立研究所 報	国立環境研究所研究報告	1	0	1
	国立環境研究所特別研究報告	7	0	7
	公衆衛生研究	15	0	15
	公害資源研究所報告	7	0	7
	公害	7	0	7
	資源	1	0	1
	土木研究所資料・共同研究報告書	13	0	13
	資源と環境	28	0	28
	農業工学関係研究成果情報	1	0	1
	野菜・茶業研究成果情報	1	0	1
	農業環境研究成果情報	11	0	11
	港湾技術研究所報告	4	0	4
	畜産研究成果情報	8	0	8
	資源環境技術総合研究所報告	2	0	2
	森林総合研究所研究報告	2	0	2
	草地飼料作研究成果情報	8	0	8
地方研究所 報	北海道環境科学研究センター所報	0	1	1
	岩手県衛生研究所年報	10	0	10
	宮城県保健環境センター年報	18	0	18
	仙台市衛生研究所報	2	0	2
	秋田県環境技術センター年報	2	0	2
	福島県衛生公害研究所年報	7	0	7
	福島県環境センター年報	0	1	1
	茨城県公害技術センター研究報告	8	0	8
	栃木県保健環境センター年報	9	1	10
	群馬県衛生環境研究所年報	10	0	10
	埼玉県環境科学国際センター報	21	6	27
	千葉県水質保全研究所年報	15	0	15
	千葉県環境研究センター研究概要	6	0	6
	千葉県環境研究センター年報	0	13	13
	千葉県廃棄物情報技術センター年報	41	0	41
	東京都環境科学研究所年報	58	6	64
	東京都環境科学研究所年報(廃棄物研究室編)	11	0	11
	東京都清掃研究所研究報告	232	0	232
	東京都土木技術研究所年報	11	0	11
	東京都立アイソトープ総合研究所研究報告	9	0	9

	東京都立衛生研究所研究年報	5	0	5
	東京都立工業技術センター研究報告	9	0	9
	東京都立産業技術研究所研究報告	24	0	24
	東京都立繊維工業試験場研究報告	4	0	4
	東京都立農業試験場年報	2	0	2
	神奈川県環境科学センター研究報告	20	0	20
	新潟県衛生公害研究所年報	38	2	40
	川崎市公害研究所年報	2	1	3
	新潟県保健環境科学研究所年報	3	0	3
	富山県環境科学センター研究報告	6	1	7
	富山県公害センター年報	7	0	7
	福井県衛生研究所年報	2	0	2
	福井県環境科学センター年報	1	0	1
	福井県衛生環境研究センター年報	0	1	1
	山梨県衛生公害研究所年報	2	0	2
	長野県衛生公害研究所研究報告	9	0	9
	長野県環境保全研究所研究報告	0	1	1
	静岡県環境衛生科学研究所報告	5	0	5
	愛知県環境調査センター所報	22	3	25
	岐阜県保健環境研究所報	3	0	3
	三重県科学技術振興センター保健環境研究部 年報	1	3	4
	京都府保健環境研究所年報	18	0	18
	大阪市立環境科学研究所調査・研究年報	19	3	22
	兵庫県立健康環境科学研究所センター年報	0	1	1
	鳥取県衛生環境研究所報	0	1	1
	広島県保健環境センター研究報告	5	0	5
	山口県衛生公害研究センター業務報告	2	0	0
	山口県環境保健研究センター業績報告	1	0	1
	高知県環境研究センター所報	1	0	1
	香川県衛生研究所報	1	0	1
	香川県環境保健研究センター所報	2	2	4
	愛媛県立衛生環境研究所年報	0	3	3
	福岡県保健環境研究所年報	0	4	4
	福岡市保健環境研究所報	2	6	8
	鹿児島県環境センター所報	2	0	2
雑誌	INDUST	868	0	868
	生活と環境	737	77	814

	環境情報科学	52	0	52
	都市清掃	922	102	1,024
その他	Proceedings of Eighth International Waste Management and Landfill Symposium, SARDINIA 2001	386	0	386
	Proceedings of Seventh International Waste Management and Landfill Symposium, SARDINA 99	425	0	425
	Waste Management & Research	473	0	473
	全国都市清掃研究発表会講演論文集	1,686	111	1,797
	(財)日本環境衛生センター所報	59	0	59
	廃棄物処理科学研究発表会	193	63	256
	環境情報科学論文集	31	7	38
	合計	15,390	1,178	16,568